

中濃農林事務所の普及活動状況 令和7年1月31日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■農福連携 中濃地域農福連携会議開催

1月14日、中濃総合庁舎で令和6年度中濃地域農福連携会議が開催され、関係機関や生産組合の組合長28名が出席した。

会議では、農福連携の現状や課題を関係機関で共有し、今後の推進に向けての検討を行った。その後、先進的な活動を行っている株式会社DAIから、「農福連携へのアプローチと実践」について事例報告が、各生産組合からは、農福連携の効果と今後の展開についての要望等が出された。

農業普及課では、今後も関係機関との連携を密に行い、農福連携推進に向けた活動に取り組んでいく。

(地域支援係)



【会議の様子】

■女性農業経営アドバイザー 中濃ブロック研修会

1月21日、中濃総合庁舎で中濃ブロック女性農業経営アドバイザー研修会・交流会が開催され、15名が出席した。

研修会では、農業技術センター病理昆虫部の鈴木主任専門研究員から、最近の農薬散布にかかわる最近の害虫防除法について講演が行われた。その後グループに分かれて、それぞれ農業の課題等について意見交換を行った。参加者らは、普段の防除方法を見直し、環境に配慮した栽培方法ができないか検討している様子であった。

農業普及課では、今後も引き続きアドバイザーの自主的な組織活動への支援を行っていく。

(地域支援係)



【害虫防除の講演】

■担い手リーダー・新規就農者 武儀地区担い手リーダー・新規就農者交流会

1月27日に「武儀地区担い手リーダー・新規就農者交流会」が開催された。

武儀地区指導農業士会主催で、武儀地区の担い手リーダー（指導農業士、女性農業経営アドバイザー、青年農業士）と就農5年未満の新規就農者及び就農希望者が、適切な労務管理と労働環境改善について学ぶとともに、意見交換会で新規就農者等が抱えている課題等について担い手リーダー等からアドバイスをいただくなど、活発な意見交換が行われた。

農業普及課は、関係機関と連携して交流会の企画運営を行った。今後も新規就農者の育成と営農定着に向けて、重点的に取り組んでいく。

(農業普及課)



【意見交換会】

■新規就農者等支援 JAめぐみの新規就農者集合研修

1月31日、JAめぐみの新規就農者集合研修において、GAPに関する講義を行った。この研修はJAめぐみの管内の新規就農者や研修生を対象に、農業に関する幅広い知識や技術を習得させることを目的に、11月1日から12回にわたって行われており、農業普及課も一部講義を担当するなど開催を支援してきた。

この日は研修の最終日であり、講義終了後には修了式が行われ、受講生に修了証が授与された。

農業普及課では、新規就農者の育成と営農定着に向けて、就農計画作成支援や新規就農者への重点巡回指導などに取り組んでいく。

(地域支援係)



【GAPの講義】

安心して身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 収量・品質向上に向けた栽培研修会

1月28日、JAめぐみの水田担い手協議会の中濃支部研修会が開催され、中濃管内の水稲担い手の27名が出席した。関市役所からは農業施策について、JA全農岐阜からは米穀や肥料情勢についての情報提供が行われた。農業普及課からは、令和6年産の水稲栽培における振り返りと、気候に対応した水稲の収量・品質向上に向けた栽培についての研修を行った。出席した参加者らは、高収量・高品質な米生産に向けて今できることを一つでも取り入れようと、熱心に情報収集を行っている様子うかがえた。

農業普及課では、今年産の水稲栽培に向けて今後も引き続き情報提供を行っていく。

(地域支援係)



【栽培研修会】

■夏秋なす 第3回中濃夏秋茄子生産出荷組合役員会

1月29日、中濃営農経済センターにて、第3回中濃夏秋茄子生産出荷組合役員会が開催され、JAめぐみの担当者と5名の役員が出席した。

役員会では、総会の開催、面談の日程について検討された。農業普及課からは、次年度の栽培暦と防除暦の提案を行った。

農業普及課では、次期栽培計画に繋げるための個別面談を行うなど、今後も中濃夏秋茄子生産出荷組合の支援を継続していく。

(地域支援係)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■キウイフルーツ 剪定講習会の開催支援

1月19日、ほらどキウイフルーツ生産部会は、冬季の剪定講習会を開催した。部会員及び関係者等10名の参加者があり、電動式剪定バサミの使用方法や剪定に係る技術を学んだ。

電動式剪定バサミは便利ではあるが、メンテナンスを怠ると使えなくなってしまうことや作業中にハサミとバッテリーを繋ぐコードを切ってしまった例が話題に出たため、作業の準備や作業中の安全管理に注意することを確認した。

剪定技術では、夏季剪定を行うことで枝の絡みが少なるため冬季剪定の効率が上がること、枝が込み入って雪が溜まりやすい部分を優先して剪定することを確認した。

農業普及課では、電動式剪定バサミの普及を進めるとともに、作業の安全対策に配慮しつつ、効率の良い作業を目指して部会の支援を継続していく。

(地域支援係)



【剪定の様子】